

## 2026 年の国際石油市場見通し

### - 供給過剰と地政学リスク - <報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット  
石油・石炭・鉱物資源グループマネージャー  
研究主幹 森川 哲男

#### 2026 年の国際石油市場

1. 世界の石油需要は 2026 年も緩やかに増加するものの、世界の石油供給は 2026 年も非 OPEC プラスの増産を中心に拡大を続け、全体として供給超過のバランスとなる。
2. 上記の需給環境下で原油価格には下押し圧力が働きやすく、2026 年の Brent 価格は\$55/bbl が中心水準になると予想する。世界経済、OPEC プラスの生産政策、地政学リスク影響などの要因次第で原油価格は大きく変化しうる。

#### 石油需要

3. 世界の石油需要は、2025 年第 3 半期に前年同期比で 110 万 b/d (1.0%) 増加し 1 億 510 万 b/d となった。アジアの需要増加は緩やかであり、世界の需要増加ペースは鈍化している。2026 年の需要は前年比 96 万 b/d (0.9%) 増の 1 億 490 万 b/d と予測する。
4. 中国の需要は、2025 年第 3 四半期に前年同期比で 28 万 b/d (1.7%) 増加し 1,709 万 b/d となった。米国制裁が影響し、イラン産が大部分を占めるとされている「マレーシア」産原油輸入量が減少、ロシア産も減少する見込み。11 月の首脳会談の結果、米中対立は一旦沈静化しているものの、対立が再燃すれば景気がさらに減速し石油需要が押し下げられる可能性がある。

#### 石油供給

5. 世界の石油供給は、2025 年第 3 四半期に前年同期比 470 万 b/d (4.6%) 増加し 1 億 810 万 b/d となった。OPEC プラス増産に加え、米州も好調で生産量は大幅に増加している。ロシアの輸出量減少想定を踏まえても 2026 年の生産量は前年比 100 万 b/d (1.0%) 増の 1 億 720 万 b/d と予測する。
6. OPEC プラスは 2025 年 4 月に増産に転換した。9 月までは当初予定よりも

早いペースで増産してきたが、10 月に 2026 年第 1 四半期の増産を停止することを決定、11 月 30 日の会合でも当該決定を維持した。2026 年第 2 四半期から増産できなければ増産意欲の強い UAE やイラクが反発し、生産合意順守率が悪化する可能性もある。

7. 米国の原油生産量は、2025 年第 3 四半期に前年同期比 41 万 b/d (4.0%) 増加し 1,378 万 b/d となった。増産を維持しているが足下の WTI 価格は米国の石油の平均生産コストを下回っている。そのため増産は難しく、2026 年の生産量は 2025 年から横這いの 1,350 万 b/d と予測する。

#### 地政学リスク

8. 2025 年は石油市場にとっての地政学リスクが高まった。4 月に米中貿易摩擦が激化し油価が大幅に下落し、6 月にはイスラエルおよび米国がイランを攻撃し価格は一時上昇した。10 月には米国・英国・EU がロシア制裁を強化し、12 月には米国がベネズエラに対する地上攻撃に踏み切る可能性が出ている。産油国への制裁や攻撃は価格上昇材料、米中対立が再燃すれば価格低下材料となる。
9. 特にロシアの石油輸出量に関する不確実性が高い。対ロ制裁強化の影響でロシアの輸出量は 2025 年 11 月に前月比 42 万 b/d 減少の 686 万 b/d となった。2026 年の輸出量は 2025 年 11 月水準から 50-100 万 b/d 減少すると想定する。一方、ウクライナ和平が実現すれば輸出量が回復する可能性もある。

#### 石油需給バランス・価格見通し

10. ロシアの輸出量減少想定を踏まえても生産量増加が需要増加を上回り、2026 年は通年で 230 万 b/d の供給過剰になることが見込まれる。
11. 供給過剰圧力の存在の下、2026 年の Brent 価格は\$55/bbl が相場の中心水準になると予想する。
12. 一方、ロシア等産油国の地政学リスク、米中対立再燃の可能性を踏まえた中国の需要、2026 年第 2 四半期以降の OPEC プラスの生産方針が主要な不確実性である。
13. 本想定以上のロシア輸出量減少およびイランやベネズエラでの供給途絶が起これば、相場の中心水準が\$10 程度上振れ、ウクライナ和平合意・米中対立再燃・OPEC プラス増産の場合には\$10 程度下振れしうる。

以上

お問い合わせ : [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)